

ラムサール条約・生物多様性条約を通じた、水田決議に基づく生物多様性向上のための実践活動の地球規模の推進

〒110-0016
東京都台東区台東1-12-11
青木ビル3階
電話:03-3834-6566
E-mail:info@ramnet-j.org
http://www.ramnet-j.org/



プラットフォーム助成
3年目
国際会議



第8回田んぼ10年地域交流会の参加者

全国集会及び地域交流会	3回
水田決議円卓会議準備会開催	8回
今年度計画の達成度	95%
活動の全体目標に対する達成度	90%

苦労した点と工夫した点



■ 苦労した点

「田んぼ10年」へは、強い関心を持つ人々からの申し込みはあったが、それ以外はずかだった。参加者数増加のためには、関心が薄い人が参加しやすい工夫が必要となった。

■ 工夫した点

正式の参加登録書以外に簡易登録書を作成し、全国集会、地域集会で配布し、「田んぼ10年」の趣旨説明と共に、参加登録を求めようとした結果、参加数が増加し始めた。

課題

国際的に関心が低い水田の生物多様性に注目し、アジアの日本からその価値を世界に発信し、水田が多い、アジア・アフリカ・中南米諸国と連帯し、国際的な関心を高める。

目標

水田の生物多様向上をめざす取組みが、日本国内のみならず、水田を広く持つアジア・アフリカ・中南米の国々でも主流化されること。

活動内容と成果

フィリピンで地元大学の協力を得て、田んぼの生きもの調査(24か所)と田んぼ10年の特別講義を行い、多くの賛同者を得た。イフガオ棚田に係るワークショップに参加し、活動紹介・意見交換を行う。/ラムサール条約アジア地域会合(スリランカ)で、決議案(湿地の農業)に、田んぼ10年を成功事例として追記すべきと提言。/田んぼだよりを3号発行。/全国大会、地域集会(小田原市、津幡町)を開催。/プロジェクトへの参加登録数は目標数を大きく超え226に達した。/農水、環境、国交省と水田決議円卓準備会議を8回開催。

全助成期間の活動を振り返って

田んぼの生物多様性の主流化をめざし、国内では「田んぼ10年」への登録増加をめざし、各種集会、HPで普及・参加を呼びかけ、登録数は目標を超え226となった。

アジアの韓国・フィリピンでは賛同者が増加し、アフリカでは、ウガンダでの国際シンポジウム等を経て東アフリカでその理解が深まり、中南米では課題は多いが、コスタリカは趣旨に賛同し、積極参加の意思を示している。全体として最終目標に近づいている。



フィリピンでの田んぼの生きもの調査風景



ラムサール条約・アジア地域会合に参加

今後の展望

3年間の助成で、国内では活動の基盤を確立でき、国外では、特にアジア・アフリカで、今後の活動拠点となりうる団体/個人とのネットワークも整ってきた。今後は、活動の成果であるネットワークを強化・拡大し、国内外で田んぼの生物多様性向上の主流化をめざす。国内では空白地域での普及活動に力を入れ、国外では「拠点」活動との協働・支援を通じ、理念の共有と地域特性を活かした地域行動計画の策定・実践の支援も行いたい。